

持続可能性は地球規模の問題ですが、
解決にはほど遠い状況です。

オーストラリア牛肉業界は
この問題を率先して話し合い、
中心的役割を担わなくてはなりません。

サステナビリティ・フレームワーク
(持続可能性に関する枠組み)の
素晴らしい点はその協力プロセスです。

牛肉産業にかかわる人々と
力を合わせることで、
息の長い発展につながるのです。

ブライス・キャム
サステナビリティ畜産グループ会長



私たちのビジョン

人々の健康・幸福、福祉、環境の
向上に絶えず取り組み、オーストラ
リア産牛肉業界の発展を目指します。

私たちにとって持続可能性とは

持続可能性は、社会・環境・経済に対し責
任ある方法で牛肉を生産することです。そ
の実現に向け、天然資源、人と地域社会、動
物の健康と福祉に配慮するとともに、これらを
改善すべく努力し続けます。



サステナビリティ・フレームワークの活用例

フレームワークは、牛肉業界が農場とバリューチェーン全体に指針
を提供し事業者の活動を把握することで、オーストラリアが今後も持
続可能な牛肉生産事業のグローバルリーダーとして認められるよう、
各種取り組みに活用されます。

また、消費者、顧客、業界、その他すべての利害関係者に、牛肉業
界における持続可能性の取り組みについての明確で簡潔な情報を提
供できます。

スタートから1年目の成果



業界として重点的に取り組む6項目の優先課題を決定



森林と草地のバラ
ンスに関する専門
家小委員会を設置



牛肉バリューチェー
ン全体の代表者を
含む、第2次サステ
ナビリティ畜産グ
ループを設置



47の指標に関する
データの収集が、
60%完了



関係者との諮問委
員会フォーラムを2
回開催

サステナビリティ・フレームワークの協力団体



サステナビリティ・フレームワーク 最新版(2018年)文書はこちら

www.sustainableaustralianbeef.com.au/annual-update

詳細についてのお問い合わせ

Pip Band(サステナビリティ畜産グループ事務局) pband@mla.com.au



2018

オージー・ビーフ サステナビリティ・フレームワーク

サステナビリティ・フレームワーク(持続可能性に関する枠組み)は
2017年4月、消費者や顧客、投資家、その他関係者からの期待や
ニーズの変化に応えるため、オーストラリア産牛肉業界と関係者
の協力により発足しました。フレームワークでは持続可能な牛肉生
産の定義を定め、一連の基準に照らした成果を毎年調査します。

サステナビリティ・フレームワークの詳細

* 諮問委員会とサステナビリティ畜産グループの定めた、重点的に取り組むべき6項目の優先課題

テーマ	重点分野	基準	データ
1 アニマルウェルフェアの向上	家畜の取扱いの熟達	「牛を対象とする豪州動物福祉基準」の認知度	56%
		「全国肥育場認定制度 (NFAS) 動物福祉基準」の遵守率	96.24%
	家畜の安全な輸送	「トラックケア」に従って稼働するトラック・トレーラー・クレートの台数	トラック 474 台、トレーラー/クレート 1,278 台
		輸出船舶中の報告された死亡例発生率	0.1%
	畜産管理処理技術*	全国の無角遺伝子をもつ牛群の割合	無角雌牛 51%、無角雄牛 71%
苦痛の少ない加工技術	飼育業務において定期的に鎮痛剤を使用する全国の牛群の割合	4%	
2 動物の健康増進	防疫リスクの最小化	豪州畜産処理業動物福祉認証制度 (AAWCS) の認定施設でと殺された畜牛の割合	84%
		輸出業者サプライチェーン保証システム (ESCAS) の遵守率	90.65% が ESCAS 遵守
		クロストリジウム感染症のワクチン接種率	71%
3 収益性と生産性の向上	バリューチェーン全体の収益性向上*	文書化したバイオセキュリティ (防疫) 計画を有する全国の牛群の割合	100% が外来疾病の感染なし
		オーストラリアは引き続き国際獣疫事務局 (OIE) により外来疾病未発生国として認定。	
		全持分に対する農場事業の利益率 (収益の対総資本比で算出)	平均 3.1%、上位 25% は 6.4%
		農場の総生産性	137.2
4 市場の最適化	貿易障壁	オーストラリア農場の牛肉生産コスト	生産コストは米国の 1.2 倍
		畜牛 1 頭当たりの平均加工コスト	
		市場アクセス指数	22.3
5 土地管理手法の改善	栄養と土壌堆積物の損失最小化	貿易の技術的障害にかかるコスト	年間 20 億ドル
		オーストラリア産牛肉は安全、美味、安定した品質であるとする全国の消費者の割合	安全 60%、美味 60%、安定した品質 47%
		包括的統合システム (市場アクセスの確実な維持のため)	
6 気候変動への対応と影響緩和	気候変動リスクの管理*	土壌の年間植被日数 (表土が植物で覆われている日数)	
		土壌の健全性	
		水質	
		農場の在来植物保全のための管理区域 (基準は検討中)	
7 廃棄物の最小化	加工処理による固形廃棄物の埋立て利用	非生産的な在来・外来植物の侵入に対する草地維持システム (基準は検討中)	
		原生林の伐採なし (基準は検討中)	
		健全な草地システムの拡大 (基準は検討中)	
8 栄養価が高く安全な食品の生産	気候変動への適応と対策	肉牛飼育時の生体重 1kg 当たりの CO ₂ 排出換算値 (kg)	生体重 1kg 当たり 13.1kg
		肉牛加工時の標準温と体重量 1t 当たりの CO ₂ 排出換算値 (kg)	HSCW 1t 当たり 432kg
		加工段階で捕捉・再利用される炭素の割合	エネルギー使用量の 6.6%
9 労働者の能力向上	炭素隔離	炭素隔離	
		生産者が長期的な変化に対応可能な信頼性の高い (ビジネス上および生物物理的な) 情報、手段、技術、物資を備えている。	
		畜牛飼育時の標準温と体重量 1t 当たりを使用される水の量 (kℓ)	HSCW 1kg 当たり 515ℓ
10 業界従事者の健康・安全・幸福の実現	廃棄物の最小化	肉牛加工時の標準温と体重量 1t 当たりを使用される水の量 (kℓ)	HSCW 1t 当たり 8.6kℓ
		肉牛加工時の標準温と体重量 1t 当たりの固形廃棄物 (kg)	HSCW 1t 当たり 5.9 kg
		牛肉を健康でバランスのよい食生活の一部として消費	牛肉はバランスのよい食生活の一部と考えている国内の消費者の割合
10 業界従事者の健康・安全・幸福の実現	食品の安全性	生の牛肉に関連した食品安全上の問題の発生率	0.00084% (重量比)
		抗生物質の適正使用プログラムの対象畜牛の割合	
		抗菌剤調査プログラム	
10 業界従事者の健康・安全・幸福の実現	抗菌剤の適正使用*	参加・修了した訓練生と実習生の人数	参加: 農場 333 人、肥育場 10 人、加工場 修了: 農場 164 人、肥育場 1 人、加工場
		教育・訓練	
		OJT 研修の修了者数	
10 業界従事者の健康・安全・幸福の実現	労働者の多様性	高等教育を修了している牛肉産業従事者の割合	17%
		労働者に占める男性と女性の割合	農場: 女性 39.5%、男性 60.5% 肥育場: 女性 20.0%、男性 80.0% 加工事業者: 女性 25.2%、男性 74.8% 牛肉業界全体: 女性 25.9%、男性 74.1%
		労働者の年齢構成	
10 業界従事者の健康・安全・幸福の実現	労働者に占める先住民の割合	労働者に占める先住民の割合	
		届出義務のある死亡事例数	9 例
10 業界従事者の健康・安全・幸福の実現	世界の生活満足度 (GLS) 指数		

オーストラリア牛肉産業が取り組む 4つの持続可能性テーマ



アニマルウェルフェア Animal Welfare

動物の健康と福祉は、生産者だけでなく牛肉産業全体にとって最も重要な課題です。牛肉業界では、高い水準を維持し、今後も向上させていくための研究、開発、導入プログラムに投資を行っています。また、適正なアニマルウェルフェアはオーストラリアの法的要件であり、動物への虐待は犯罪行為です。サステナビリティ・フレームワークにおける動物福祉のテーマは、「5つの自由」に基づき、さらに動物福祉の5分野を念頭に策定されました。

- 飢餓と渇きからの自由: 健康と活力を維持するため、新鮮な水と飼料をすぐにとれる環境であること。
- 物理的、熱の不快感からの自由: 畜舎、快適な牛床などを備えた適正な環境であること。
- 苦痛、傷害または疾病からの自由: 速やかに診断・治療して防ぐこと。
- 正常な行動ができる自由: 十分なスペースのある適正な施設で、同種の動物とともに飼育すること。
- 恐怖および苦悩からの自由: 精神的な苦痛を感じないよう条件を整え、取り扱うこと。



経済的強靱性 (レジリエンス) Economic Resilience

オーストラリアは世界有数の牛肉輸出国であり、トップレベルの生産効率性を誇ります。しかし国内牛肉産業の農場収益率は低く、他の産業に及びません。さらに農場以外の多くのコストは、海外の主な競合国を上回っています。オーストラリア産業の国際社会における評価を支える、万全のシステムを維持し向上させていく私たちの決意は、バリューチェーン全体の生産性と収益性を高めるための継続的な投資と同様に、極めて重要なものです。また、サステナビリティ・フレームワークでは、経済的な強靱性と市場アクセスの最適化を維持することに注力します。



環境への責務 Environmental Stewardship

牛肉産業は、特に環境リスクの大きい産業です。例えば気候変動は水や飼料の調達を左右します。土壌、水、空気、旺盛な自然の生態系といった良好な自然環境なしに牛肉産業の発展はありえません。牛肉のバリューチェーンでは、環境へのあらゆる影響の最小化に取り組みます。農場では、自然環境と調和して働くことが何よりも大切です。サステナビリティ・フレームワークにおける重点分野は次のとおりです。

- 土地管理方法の改善
- 廃棄物の最小化
- 効率的な水利用など、気候変動への対応と影響緩和

オーストラリアでは、農場、肥育場、加工処理業者の業務について、厳しい環境上の法規制が定められています。



人と地域社会 People and the Community

豊かで強靱な地域社会に生きる、安全で健康な能力ある労働力は、牛肉産業の持続可能性になくてはならない存在です。また、安全で栄養価が高く安定した品質の牛肉を消費者に届けることは、私たちの産業の長期的な発展に欠かせません。オーストラリアでは、人権と公正な労働に関する法規制が徹底されています。サステナビリティ・フレームワークにおいても、労働者の能力の向上および健康と安全、ならびに消費者への安全で栄養価の高い食品の提供に尽力します

